

## 27～28年産よりも回復は遅い?(相場展望)

市中相場は不確定材料が多く、動きが読みづらい。新型コロナウイルス感染症の収束時期、4年産作付の要素だけでも需給見通しは数万トン単位で上下するほか、持ち越し古米、とくにコロナ特別対策15万トンの販売・提供状況によっては需要変動が起こる可能性も。また、近年は個別銘柄の過不足が顕著で、全体とは異なる動きとなっている。

一般的には令和4年産、5年産に向けて市況回復をたどると予測する。当面は平成27～28年産を参考年としたい。ただ、当該年は配分による生産調整により、深堀りを達成していたことや、現状は新型コロナウイルスの影響が続く可能性が高いことから、市況回復は参考年よりも遅れると予想する。

### 1.うるち米

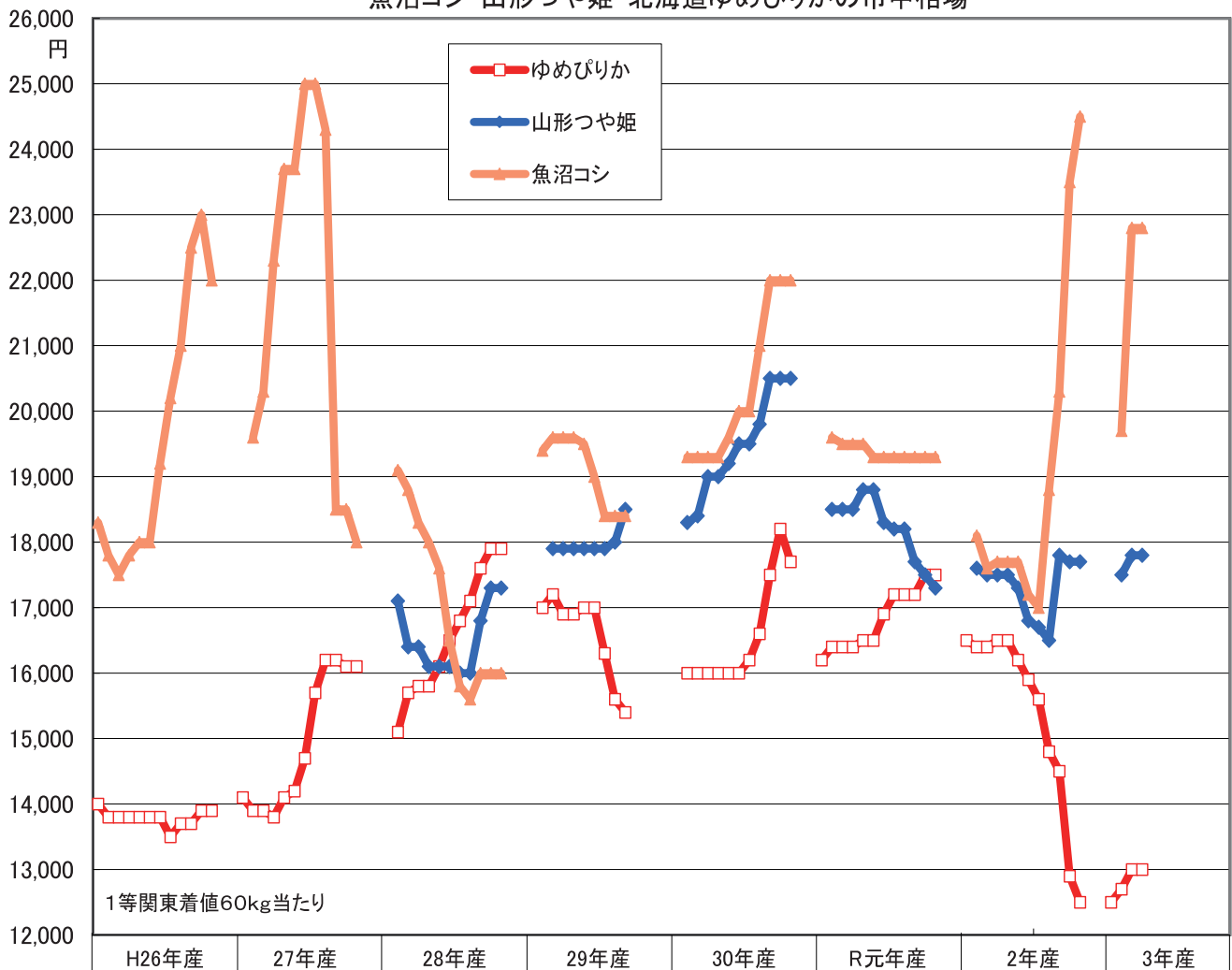
#### 【高額銘柄】まちまち

北海道ゆめぴりかの動きがキーポイント。作柄「良」、品質「基準品比率9割超」で、供給不安はない。民間玉は出づらいが上値も限られる。急騰した新潟魚沼コシヒカリも要注意で、先が見えれば急落もあり得る。平成27年産が参考になりそう。山形つや姫は堅調ながら、北海道ゆめぴりかに下値を潜られており、消化進度の確認が必要。

#### 【中間銘柄】こまち対ひとめ・コシ

秋田あきたこまちと、東北ひとめぼれ・関東コシヒカリとの格差が1,000円以上もある。いずれもスーパーの定番アイテムだが、原価の差が消化進度にも影響することが想定される。あきたこまちは必需筋がどこまで追えるか。市況回復は後者が先とみる。

魚沼コシ・山形つや姫・北海道ゆめぴりかの市中相場



(前ページからの続き)

【低額銘柄】古米消化と中間銘柄の動き次第

3年産主食用米の収穫量は前年比22万トン減。低額銘柄主体に飼料用米に振り替わった。需給均衡なら下の銘柄から押し上げる格好になるが、古米在庫が近年最も多く、系統玉だけで前年比約20万トン増(こちらは全量契約済み)。値頃感のあるものから順番に拾われる。中間銘柄の居所次第で上値余地も変わる。

2.もち米

◆見切り売るか長期保管か

完全に買い手市場。新型コロナ禍の需要減で消化遅れ。令和3年産は加工用もち米の認定数量が6万7千トン、前年実績比38%増と、安価な原料供給が増えた。東北・関東ヒメノモチ1等産地置場1万2,000円見当がぼつぼつ拾われるが、1万3,000円以上の高額銘柄はほぼ見送られる。見切り売るか、長期保管かの判断に。

(参考年)平成27～28年産の市中相場

